

埼玉建協と県による座談会 テーマ 「県と県内建設会社との連携の在り方」



参加者
 埼玉県建設業協会青年経営者部会 平岩敏和 部会長(右)
 埼玉県建設業協会青年経営者部会 吉川祐介 副部会長(左)
 県土整備部 林雄一郎 参事兼河川砂防課長(中央)

大規模災害備え 平時から繋がり強化

近年、大規模な水害や土砂災害が毎年のように発生し、行政と地元企業の連携がより一層求められる時代となっている。そこで「県と県内建設会社との連携の在り方」をテーマに、県土整備部の林雄一郎参事兼河川砂防課長、埼玉県建設業協会青年経営者部会の平岩敏和部会長、吉川祐介副部会長の3人による対談が実現した。平岩部会長は「スマートでカッコいい現場を」と訴える。吉川副部会長は「顔が見える人間関係」を強調。林参事は「河川の3D化」について語った。

「県と地元企業との連携の在り方」について
 平岩 昨年の台風19号などの災害に対して、建設業者はさまざまな対応に当たりました。その8月27日に防災インフォスを開きます。趣旨は「昨年の災害で見た課題をしっかりと解決することです。そういった場を生かし、県との連携を深め、災害という「待ったなし」の状況に備えなければなりません。」

林 災害対応は個人も組織も経験の積み重ねが最も重要です。平岩部会長が仰るように、ただ経験するだけでなく、その経験からいかに教訓を得るか、次に結び付けていくのか、常に振り返っていくことが大事だと思います。一歩一歩になると思いますが、お互いのレベルアップのために、ぜひ取り組んでいきたいですね。

吉川 近年の東日本大震災、秩父豪雪、台風19号など、どの災害も、顔が見えていない人が現場で苦しむ姿が思い浮かび、自分も何かできないかという思いで支援してきました。先ほども話があるように、反省から教訓を得ることで対応すべき部分もあります。それに加え、業者間で仲の良い人間関係を作ること、受発注者間でコミュニケーションをとり、お互いに顔が見える関係性が重要です。

スマートな現場目指す 平岩氏



建設と言えば、i-Constructionに積極的に取り組んでいるのでデジタルな人と思われていますが、凄く人間味に溢れるハートフルなお話ですね。私も同感で、災害協定の前提として、人と人のつながり、お互いの信頼関係が大切だと思います。

平岩 災害協定は結局どこまで、社員や協力会社が「協定を結んでいる会社」と自覚を持ち、何かあった時の心構えが日々どこかで持っているように感じています。万が一の備えが整っていないことを発信することで、地域住民の不安を軽減してもらいたいのではないですか。

ただ、道路が冠水すると国道、県道、市道が関係なくなるので、市民から直してほしい」と要望を受けています。さらに、この災害に対して県や市から、災害に対する要請があった場合、どこから先手を打たなければならないか悩みます。今後は、国・県・市の横のつながりをどのように運用するか、が課題だと思います。

顔が見える関係性重要 吉川氏



課題を思いました。林 それぞれの立場で迅速な対応が求められているので、なかなか難しい課題ですね。一方で、ある支店で大変な状況にきたら、他支店や他県から応援を呼ぶ仕組みまでできてきていると思います。

「最後に、平岩 問題が生じた時に受け止めて、改善していく中に次のステップアップのヒントがあると思います。さきほど申し上げた国・県・市の連携や業界内部の協力体制です。平時の時からこそ、過去を振り返り「もし当時に戻って対応をやり直したら」、行政と企業が一つ一つ解き直していければいいですね。」

災害は「まさか」といった場合が多いので、その「まさか」に備えなければなりません。関東大震災も「まさか」でなくならないまま、来ていたのかも知れません。企業も行政も平時から市民に広く発信し、準備の機運を高めてくれる土壌ができればと思います。

吉川 われわれも「まさか」に備えた準備を日ごろから進めています。想定を越えた災害が起きてしまった時はやはり人間関係で何とかその場を乗り越えていくしかありません。日ごろから協内や行政などとの付き合い、顔の見え、電話が掛かるといった人間関係ができていれば多少の「まさか」は乗り越えられるかもしれません。

林 まさに平時からコミュニケーションを取っておくことの重要性に尽きます。そのコミュニケーションで得られたことを、われわれ行政が敏感に反応することが全体の活性化、議論の活性化につながると思います。平時から会話のキャッチボールをして、行政がしっかりと対応を返していくことが大切だと思います。



河川を3Dデータ化に 林氏

「災害時の資機材の確保について」
 林 県土整備事務所には水防活動に使う土のうなどはありますが、機動的な現場対応を考えると、県も大型土のう袋や敷板などを一定量、備蓄すべきだと思います。そして、フリーの在庫管理ソフトなどを使い、「この事務所」の程度の在庫があるのかを協会の会員企業の皆さんがクラウド上で把握できる環境があれば、災害時に相当な手間が省けると思います。

吉川 実話、その在庫管理で悩んでおり、弊社の場合、県土整備事務所のほか春日部市や河川事務所、国道事務所など協定を結び、それぞれに資機材の保有リストを提出しています。しかし災害時は、電話

「担い手確保について」
 平岩 民間行政問わず人材が不足しており、業界全体で建設業のイメージを上げなければなりません。業界全体で働き方改革を進め、新卒を育成するための、汗を流す現場メンターや建設をスマートに描いたプロジェクトもありましたが、今の若い人たちは「ビッグプロジェクトに憧れて」という感じがあまりありません。泥臭い建設イメージから脱却すれば、一気に見る目が変わっていくのではないかと感じています。

吉川 弊社ではICTを前面に押し出しているのですが、採用がやはり難しくなりました。ICTは実際に効率化を図る面もありますが、カッコいいというイメージを作り出す面もあると思います。またICTで重要なのは測量で、さまざまな林参事からあった話に加え、水面下のデジタルデータ

埼玉県建設業協会青年経営者部会 会員募集中

埼玉県建設業協会青年経営者部会は、建設業の経営力強化についての研究、経営者としての視野を深め、資質を高めるための講演会・研修会・各種視察の開催、関係団体との交流会及び情報交換会の開催を通じて、真の技術力、経営力を有する優れた地元企業として、地域社会に貢献して参ります。

語り合える仲間が、ここに居ます。私たちと共に活動しませんか？

新 規ビジネス開拓事業

地 域貢献活動

被 災地支援事業

視 察研修

会員数
現在81名
(2018年2月27日現在)

入会資格
埼玉県建設業協会会員等で50歳以下の事業者及び事業継承者。